

2024/04/07

説教:義認:残された者

お早うございます、OIC の皆さん、

義認とは、イエスの十字架上の死に基づいて、永遠の贖罪を得て、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。私たちの義認は神の計画に従っています： 時が始まる前 - 時の中で - 時が過ぎ去った後。 ここ数カ月のローマ人への手紙のメッセージは、時が始まる前から、私たちクリスチャンは“選ばれた者”であることを確信させてくれます。ローマ書はまた、宇宙の主権王である神が、すべての人の救いをみことばに委ね、選ばれた者達、すなわち教会の手に委ねられたと宣言しています。今日は、パウロが過去における神の行いと、未来のユダヤ民族に対する神の計画をどのように描写しているかを見ましょう。

パウロはここで、主が“国民”を“個人”とは区別してどのように扱っておられるかを開示していることに注意してください。

いつものように、ローマ人への手紙 10 章と 11 章の箇所を聖書の他の箇所と相互参照しながら、パウロの発言の多くを説明します。教会における最大の異端は、聖書を聖書で証明することのない神学や教義でした。ですから、神の真理を保証するためのつながりを作ることを、どうか我慢してください。もし私が聖書のある箇所から別の箇所へとさまよっているようでしたら、どうか一緒にさまよってください。ある聖句から別の聖句へのつながりを一緒に考えてください。私のメッセージは、神の御言葉をめぐる大冒険だと思ってください

3月24日の私のメッセージは、ローマ人への手紙の第10章を締めくくるもので、使徒パウロが次のように語っています。

(ローマ 10 章 14-18 節) : 「¹⁴しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。¹⁵遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」そして、主の選ばれた教会である私たちは、イエスの命令を受け入れ、救いの言葉を世に伝えることを宣言し、2週間前にマタイ 16 章 18 節をもとにした歌を歌いました。(マタイ 16 章 18 節) : 「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」

教会は神から信頼されており、「良い事の良い知らせを世界に伝える！」という責任を負っています。では、ユダヤ民族はどうでしょうか。私たちは、ユダヤ人も異邦人も、それぞれの罪人が救われるためには主イエスの御名を呼ばなければならないことを知って

います。しかし、神はユダヤ民族の社会や共同体としての計画をお持ちなのでしょうか？

(ローマ 10 章 16-18 節) : 「¹⁶しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。

「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。」とイザヤは言っています。¹⁷そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。¹⁸でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。「その声は全地に響き渡り、そのことばは地の果てまで届いた。」。

使徒パウロは (ローマ 3 章 3 節) で述べたことを本当に繰り返しています : 「では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるのでしょうか。」パウロは、また、イザヤ書 53 章を引用して、数百年前にイザヤがイスラエルから主に個人的に拒絶されたことをどのように表現したかを思い起こします。「主よ、誰が私たちのことばを信じたのですか？」パウロは、イザヤの時代にはキリストの御霊によって、そして今、使徒たちによって宣伝えられた福音によって、同じ御霊によって、人々がキリストの言葉を聞かなければならないことを知っています。ユダヤ民族は、聞かなかったという言い訳ができるのでしょうか？パウロは「いいえ」と言います。パウロは (詩篇 19 章 1-4 節/KJ21 詩篇 19. 4) を引用します。

詩篇 19. 1-4/KJ21 より朗読します。

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。

² 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。

³ 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。

⁴ しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。神はそこに、太陽のために、幕屋を設けられた。

パウロは、神の創造物が常に**神の栄光**を語っているというこの詩篇を適用しているのでしょうか？それとも、ローマ帝国の大部分でキリストを宣べ伝えてきた自分の経験に頼っているのでしょうか。彼は、ユダヤ人たちは彼が説教した会堂で十分にキリストの言葉を聞いたと考えているに違いありません。

私たちは、パウロが (ローマ 1 章 20 節) において、総体的な罪深い社会を告発する際に、創造の証しを用いていたことを知っています。 : 「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに**弁解の余地はないのです**」

(ローマ 1 章 20 節) の天地創造の証しと、会堂での説教の両方を、パウロはローマ帝国を離れて散らされたユダヤ民族に結びつけ、**彼らが弁解の余地がないようにしたのですと、私は上の自分の質問に答えています。**

新生クリスチャンへの余談:

自然の中に神の創造物を見るとき、あなたはすぐに神の特別な感覚に気づくはずで

す。神は、聖霊があなたの心の中に種を蒔くときに、これを「準備」あるいは「救いの前」の恵みとして与えたのかもしれませんが。これは、被造物における神の御手、イエスの御業

に対する確かな意識です。というのは（コロサイ 1 章 16 節）でイエスが言われる。：

「なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」

これは、自然界に神々が憑依していると信じているのではなく、神の御手の業がキリストの栄光を伝えているのです。愛されているクリスチャンは、日常生活の中でこの体験的なキリスト教に注目する時間を持ちましょう。淀川のそばのアパートに引っ越してから、鳥のさえずりで目が覚めます。彼らは知らず知らずのうちにイエスを賛美しているのです。クリスチャンの童謡は、神についての知識が豊富であろうとなかろうと、私たちの信仰を子どもらしく保つ力を持っています。私の家での礼拝は、このような童謡を歌うことであります：

梢の鳥たちは歌を歌う。

天使たちは一日中、主を賛美する。

庭の花はその色合いを混ぜ合わせる

なぜ私も、あなたも、主を賛美すべきではないのか

パウロは、自分の民がそのような信仰の歌を歌わないので、心が重かったに違いありません。パウロは、モーセとイザヤの言葉を引用して、神が最初に選ばれた国民に抱かれた思いと苛立ち、そして神が異邦人を用いてユダヤの国民を嫉妬の念に駆られたことを明かしました。

(ローマ 10 章 19-20 節)：「¹⁹でも、私はこう言いましょう。「はたしてイスラエルは知らなかったのでしょうか。」まず、モーセがこう言っています。「わたしは、民でない者のことで、あなたがたのねたみを起こさせ、無知な国民のことで、あなたがたを怒らせる。」

²⁰またイザヤは大胆にこう言っています。「わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、わたしをたずねない者に自分を現わした。」

(ローマ 10 章 21 節)：「²¹またイスラエルについては、こう言っています。「不従順で反抗する民に対して、わたしは一日中、手を差し伸べた。」

そして**(ローマ 11 章 1 節)**：「すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。」

このようにユダヤ民族について深く神学的に論じると、パウロを含むイエスの最初の弟子たちがみなユダヤ人であったことを忘れてしまうかもしれません。

(ローマ 11 章 2-3 節)：「²神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたわけではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言いました。³主よ。彼ら

はあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこわし、私だけが残されました。彼らはいま私のいのちを取ろうとしています。」」

ここで私たちは、**神があらかじめ知っておられた民**に注目します。パウロが言っているのは、これは、神が、時が始まる前から、個人だけでなく、国民をあらかじめ知っておられたということです。そして今、紀元前900年頃、神の忠実な預言者エリヤでさえ、**残された者**について思い起こす必要があったことを知ります。

(ローマ 11章4-6節)：「⁴ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかかめていない男子七千人が、わたしのために残してある。」⁵それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。⁶もし恵みによるのであれば、もはや行ないによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなりません。」

エリヤは命を狙われることを想像していたわけではありません。エリヤはイスラエルの人々に、主なる神が唯一の神であり、バアルは神ではないことを示すために、天から火を降らせて祈ったのです。そして、エリヤとその民はバアルの預言者たちを剣で皆殺しにしました。

(1列王 19章1-2節)：「¹アハブは、エリヤがしたすべての事と、預言者たちを剣で皆殺しにしたこととを残らずイゼベルに告げた。²すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もしも私が、あすの今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たちのひとりのいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」」

そこで神は、エリヤが主に忠誠を誓ったのも、邪悪なイゼベル女王から逃れたのも、自分ひとりではなかったことを思い起こさせました。アブラハム、イサク、ヤコブの神である主に忠実なユダヤ人は他にもいたのです。

(ローマ 11章7-10節)：「⁷では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくなにされたのです。⁸こう書かれているとおりです。「神は、彼らに鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。」⁹ダビデもこう言います。「彼らの食卓は、彼らにとってわなとなり、網となり、つまずきとなり、報いとなれ。¹⁰その目はくらんで見えなくなり、その背はいつまでもかがんでおれ。」

嫉妬は、人間の心、そして神の心においても、非常に感情的な力です。

神は((出エジプト 34章14節)でこう言われる。

—あなたはほかの**神**を拜んではならないからである。その名が**ねたみ**である主は、**ねたむ神**であるから。—

嫉妬は男女の結婚を破滅させますが、それはイスラエルと結婚した神と同じです。不信の態度は、神の裁きや配偶者の怒り、結婚の競争相手への復讐といった感情的な行動や反応につながります。だから神は、ユダヤ民族が自分たちの代わりに異邦人が神の国の

家族に入るのを見て、何らかの行動や反応を起こすことを知っていたのです。

(ローマ 11 章 11-14 節) : 「¹¹ では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。¹² もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。¹³ そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。¹⁴ そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。」

パウロが論じているのは、メシアである主イエスを逃したユダヤ民族であることを忘れてはいけません。使徒たちは、異邦人にイエス・キリストを宣べ伝える時間を取り戻すために、より多くの時間を費やし、時にはユダヤ人の共同体をあきらめなければならなかったのです。このことは(使徒 13 章 45-47 節)に記されています。 : 「⁴⁵ しかし、この群衆を見たユダヤ人たちは、ねたみに燃え、パウロの話に反対して、口ぎたなくののしつた。⁴⁶ そこでパウロとバルナバは、はっきりとこう宣言した。「神のことばは、まずあなたがたに語られなければならなかったのです。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者と決めたのです。見なさい。私たちは、これからは異邦人のほうへ向かいます。⁴⁷ なぜなら、主は私たちに、こう命じておられるからです。『わたしはあなたを立てて、異邦人の光とした。あなたが地の果てまでも救いをもたらすためである

使徒パウロは、ユダヤ民族に対する彼の心の願いに反して、彼らのほとんどが救いの福音を拒絶していることに気づいています。彼は(イザヤ 49 章 6 節)の預言を引用しています : 「ヤコブの部族を興し、イスラエルの守られた者たちを回復するために、あなたがわがしもべとなることは、あまりにも小さなことである。」

そして、パウロがアジア中の誰もイエスを宣べ伝えたことのない地域に多くの異邦人教会を建てると、まさにこのようなことが起こりました。パウロはこの嫉妬のために、時にはユダヤ人の手によって命を落としかけたこともありました。自分の召命に忠実であろうとするパウロの決意は、ユダヤ民族に対する彼の心を変えることはありませんでした。

教訓 その 1

イエスの地上での栄光のために神が私たちに与えてくださる働きの中で、神が私たちの祈りを忘れてしまったように思えることが何度もあります。主の呼びかけに従順であることは、私たちの心をイエスの愛で満たし、主とのより親しい歩みで満たすこととなります。パウロには、異邦人への宣教が実際にユダヤ民族を嫉妬に動かしたことを知る知恵が与えられていました(ローマ 11 章 14 節)。彼はまた、終末の時にユダヤ民族が受ける栄光を心に見る預言的な賜物を持っていました。イエスはしばしば、私たちが気にかけていたこと、そして忘れていたことで私たちに驚かせてくださる。

パウロの預言の賜物により（ローマ 11 章 15 節）で語っている。：「もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。」パウロは、ユダヤ民族の神への回復と終末の復活を結びつけています。この結びつきには謎が多いですが、イエスはパウロに神の計画の多くを明らかにしていました。パウロが福音を宣べ伝えながら、彼が愛したユダヤ民族を終末の時に向けて扇動する計画です。このことは、アンプリファイド・バイブル（ローマ 11 章 14-15 節/AMP）を読むとよくわかります。：「¹⁴ 同胞を何とかして嫉妬させ、[真理を求めようと煽り立てて]、もしかしたら彼らのうちの何人かを救いたいと思っているのです。¹⁵ 彼らが（救いを）拒むことが、世と（神との）和解のためであるなら、彼らが（救いを）受け入れることは、死者の中からのいのち以外の何ものでもないでしょう。」

聖書の預言的な箇所は、常に様々な解釈を刺激します。神によって知られ、人間の著者によって知られた完全で正しい意味はただ一つである。使徒マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによって記録されたイエス・キリストの福音書は、主にイエスが（ヨハネ 17 章 8 節）で父に祈りながら言われたことを成就するために書かれたことを思い出してほしいです。：「それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。」医師であるルカは使徒ではなく、聖霊の靈感を受けてルカの福音書と使徒の働きを書きました。彼の心には特別な友人、テオフィロがいた。使徒パウロの伝道旅行に同行したルカは、その重荷を（ルカ 1 章 1-4 節）で説明しています。：「¹ 私たちの間ですでに確信されている出来事については、（V. 2 挿入）多くの方が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、² 初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、³ 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。⁴ それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていただきたいと存じます。」

イエスが私たちの永遠の贖罪のために十字架上で死なれたというグッド・ニュースは、子供たちが信じて救われるように提示することができます。羊の皮をかぶった狼からイエスの羊を守り、成熟したクリスチャンにイエスとの親密な関係を与える神学を確立するためには、預言書や、特にパウロとペテロによる、より難解な著作が必要でした。

教訓その 2

ほとんどの預言的な文章は、それが起こってからでないと、誠実な信者には完全にも正確にも理解されない。神はこのことを意図しておられ、私たちが聖書を書かれた方の近くにとどまるよう励ましておられる。イエスは、ご自分の再臨を見守ることは、聖書に書かれている預言や神学に対する私たちの不完全な知識に触発されることだと明言された。聖書は、私たちを救うためのキリストの言葉であるだけでなく、神との関係を強めるための神の言葉でもある。イエスは、ご自分の再臨にまつわる出来事を述べた後、次のよう

に言われた（マタイ 24 章 42 節）：「だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。」

パウロが神の唯一の言葉を宣べ伝える際の二重の目的についての私のコメントについて、「エクスポジターズ・バイブル・コメンタリー」（EBC）はローマ書 10-11 章について同様の釈義を行っています。（EBC）「パウロは今、自分が述べた真理を自分の立場と働きに適用しています。彼は、ローマ教会の異邦人たちに、自分が言っていることの全内容を理解してもらいたいのです。彼らはパウロを“異邦人への使徒”として見てきました。しかし、彼がイスラエルに証しをする必要性を見失っていると考えるはいけません。異邦人に対する彼の働きは、単にそれ自体が目的なのではなく、同胞に到達するための手段なのです（ローマ 10 章 11 節）。異邦人の救いは、神のイスラエル選びのためであり、パウロはそれによって「ある人たち」を救うことを望んでいます（ローマ 11 章 14 節）... {ブルース牧師の削除}...。しかし、もし神が、キリストであるイエスに激しく敵対した高慢なユダヤ人である彼を回心させることができたなら、きっと彼を通して他の人々を勝ち取ることができるでしょう。これらの他の人々は、「初穂」であり、「残りの者」であり（ローマ 10 章 5 節）、彼ら自身の中に、信者の国民（ローマ 10 章 16 節）という究極的な収穫の約束が含まれているのです。」（EBC）

私の親書 {ブルース牧師の削除}：（ローマ 11 章 14 節）の“some 幾人か”という語からの釈義や意味において、（EBC）による次のような説明には同意できず、削除したためです（EBC）曰く：『（ローマ 11 章 14 節）の“save some. 幾人かを救う”は、彼の努力が、十字架につけられて復活した神の御子への国民の実際の終末論的回心をもたらすとは期待していないことを示唆しています。これは不定未来に属します」（EBC）と言う。EBC は、使徒パウロや誰もがイエス・キリストと十字架につけられたイエス・キリストを宣べ伝えている大きな理由を見逃していると思います。福音を宣べ伝えることは、主イエスの再臨を早める。イエスはこのことを、（マタイ 24 章 14 節）「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」と言われています。イエス・キリストと十字架につけられたキリストを宣べ伝える私たち一人一人は、大小にかかわらず、イエスの将来の再臨を早めているのです。また、すべての未来の預言には「不確定な未来」があり、そうでなければ預言ではありません。

しかし私は、パウロの説教によって救われたユダヤ人を初穂あるいはレムナント（残された者）として結びつけるという点で、（EBC）に同意する。このことは、パウロがローマ人に語っていたユダヤ民族に対する神の将来の計画、すなわち、イエスを信じるユダヤ民族の究極的な収穫を明らかにしています。（ローマ 11 章 16 節/AMP）：「初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。」ローマ人への手紙 11 章 16 の釈義、あるいはその意味はこうです。：最初の部分（初穂として捧げられた生地）が聖なるものであるなら、全体も聖なるものであり、根（アブラハム、家長たち）が聖なるものであるなら、枝（イスラエル人）も聖なるものである。神は、メシアが再

臨されるまで、忠実なユダヤ人の残党を地上に残すという約束、御言葉を守られると確信できます。

聖霊は、これらの聖書箇所を釈明し理解することがいかに難しいかを理解する前から、今日、いくつかのクリスチャンの子供たちの賛美の歌を選ぶよう私を導きました。父を信頼する子供たちは、*神秘*に萎縮することはないです。だから、御子イエスを通して父を知る私たちは、ユダヤ民族のため、教会のため、地球全体のため、そして最も個人的に、私たち一人ひとりの人生のために、父の計画を完成させることを信頼することができます。私たちは聖書をもっと知りたいと願っています。しかし私たちは、年齢に関係なく、子供の信仰が主イエスと共に勝利の道を歩むものであることも知っています。この難しい聖句の後、主が私たちを愛し、天地の主であることを思い出すと慰められます。

{幸福は主である}

祈りましょう！

参考文献

AMP - Amplified Bible, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

EBC - Expositor's Bible Commentary, Copyright 2004

KJ21 - 21st Century King James Version, Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NASB - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.